

# 名古屋経済

## 大昭工業 CO<sub>2</sub>排出権を取得

### 全量対象は中部で初

地球温暖化防止に貢献 企業イメージ向上

廃棄物処理を行う大昭工業（本社名古屋市中区清里町一八、木村諭意智社長、電話052・503・5311）は、県内の同業者に先駆け、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出権を取得した。業務で発生したCO<sub>2</sub>による環境への負荷を自ら負担することで、地球温暖化防止に貢献する考え。会社が出す全量を対象としたのは、中部地域の企業でも初の試み。先進的な環境への取り組みで、企業イメージを向上させ、他社との差別化を図るのが狙い。

（強田裕史）

創業は一九六五年、市内にある三千以上の。業務上、どうしても、千三百十六ト。今年三月までの年間発生排出権を購入する形を算出した。収集車の運搬作業のほか、社

寄与する考え。

専門業者を通じ、南米やインドの風・水力発電事業によって削減されたCO<sub>2</sub>に相当する量の排出権を取得すれば、自社で排出した分と相殺される。取得したCO<sub>2</sub>の量



収集車が排出するCO<sub>2</sub>はすべて権利取得の対象とした



木村諭意智社長

員の出勤や出張まで計算に入れた。企業活動の全排出量を対象とした例は、中部地域では初めてだという。取得の費用は、約六百万円にも上る。産廃業界では、競争の激化が進む。他社に先んじて環境事業を進めることで、差別化を図る考えだ。社会に向けた、イメージアップの効果も狙う。木村社長は「CO<sub>2</sub>削減の活動では、業界のトップを走りたい」と意欲をみせていた。